

① 学習指導案

プログラム	No. 11 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全70時間)	あなたが好き 私が好き 横須賀が好き
学習のねらい	<p>・横須賀市内のヒト・モノ・コト・バショに関わる探究的な学習の過程において、課題解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特長について理解する。</p> <p>・横須賀市内の「ヒト」「モノ」「コト」「バショ」から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する。</p> <p>・横須賀市内の「ヒト」「モノ」「コト」「バショ」についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする。</p>
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 横須賀に住む人が横須賀の何が好きなのかを知る</li> <li>2 横須賀に住む人にとっての「好き」を体感する</li> <li>3 自分たちにとっての「横須賀が好き」を表現する</li> <li>4 表現活動を振り返る</li> </ol>
参考資料	広報よこすか
準備品	児童用カメラ 表現活動を行うための画材（パネル、和紙、油絵具 等）
実施場所等	ソレイユの丘 くりはま花の国 うみかぜ公園 ヴェルニー公園 三笠公園 観音崎公園 馬堀海岸駅周辺 浦賀駅周辺 県立大学駅周辺 等

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
5	<p>1 横須賀に住む人が横須賀の何が好きなのかを知る。</p> <p><u>インタビュー調査</u></p> <p>馬堀海岸駅、浦賀駅 くりはま花の国 等</p>	<p>自分たちにとってはっきりとした「好き」がないということを感じさせる。</p> <p>視点を「自分」から「横須賀に住む人」へと広げる。</p>	<p>探究的な学習に主体的・協働的に取り組んでいる。</p>
30	<p>2 横須賀に住む人にとっての「好き」を体感する。</p>	<p>収集した情報をもとに、横須賀の景観を味わう場を設ける。</p>	<p>調査して得た情報を基に考えている。</p>
30	<p>3 自分たちにとっての「横須賀が好き」を表現する。</p> <p><u>作品展開催</u></p> <p>例：横須賀市の魅力50選</p>	<p>視点を明確化する。</p> <p>①相手意識 横須賀に住んでいる人</p> <p>②目的意識</p>	<p>考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する。</p>



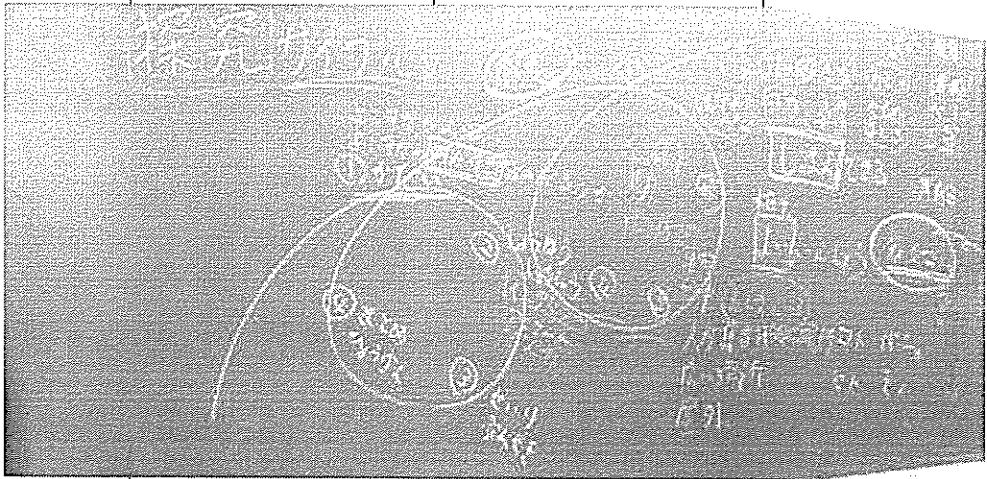

		横須賀の景観の素晴らしさを 自覚してもらう	
5	4 表現活動を振り返る。	活動を振り返り、できるようにな ったことを知る。	互いのよさを生 かしながら、自ら 社会に参画しよう としている。


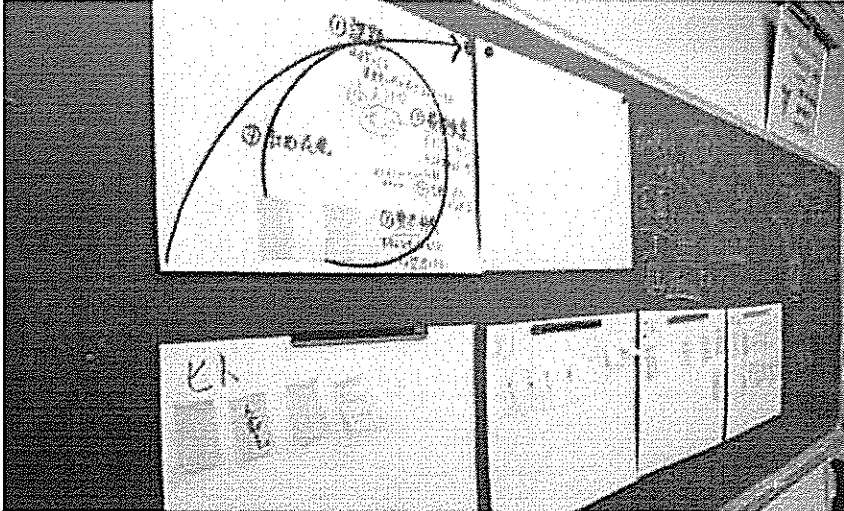
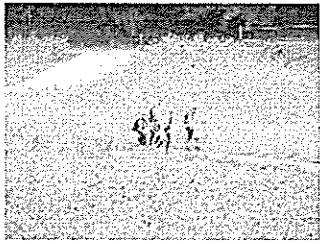
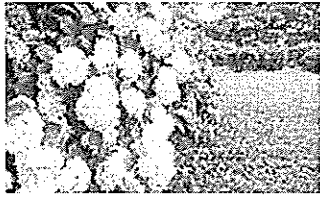
<留意点>

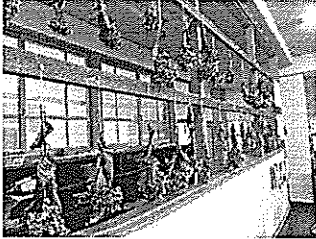


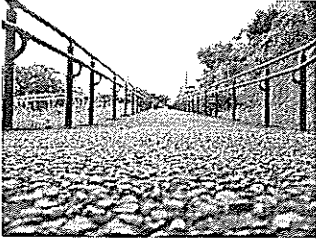
- ・児童の実態に応じて、柔軟に他者や一般社会と関わっていく

## ② 事業実施報告書詳細

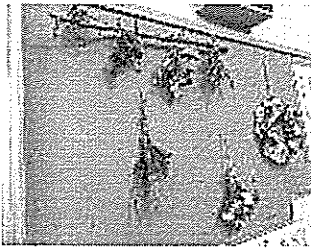


学校名 横須賀市立望洋小学校



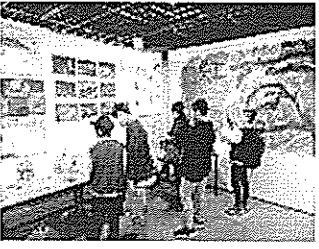
時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	教室	オリエンテーション		総合的な学習の 時間を経てどのよ うな力をつけるの かを考えていた。
				
4	馬堀海岸駅 浦賀駅	インタビュー調査	 <p>インタビューの様子①</p>	<p>国語(言葉で人 とつながること) や外国語(相手意 識をもつこと)で の学びを発揮して いた。</p> <p>自分たちのまち の“よさ”につい てインタビューを する中で、人の温 かさを実感してい</p>
		<p>本時は総合的な学習ではなく、国 語「きいて、きいて、きいてみよ う」の単元で実施</p>		

				た。 インタビュー調査の結果、自分たちの知らない「横須賀のよさ」があったと気づき、現地に足を運んでその「よさ」を肌で感じたいという思いがあふれてきていた。
				
6	くりはま 花の国	実地調査① インタビュー調査		実地調査を行いインタビューで聞いた「よさ」を肌で感じていた。 また、そこでも能動的にインタビュー調査を行い、さらに情報収集を行っていた。
	本時は総合的な学習ではなく、 遠足的行事の際に実施		実地調査の様子	
5	観音崎 公園	実地調査②		観音崎公園にしか咲いていない紫陽花「汐音」に出会うことができ、とても前のめりに実施調査を進めていた。また、その道中にのあちらこちらに咲いていた紫陽花を見て「普段は全然見向きもしないけど、この
			実地調査の様子	

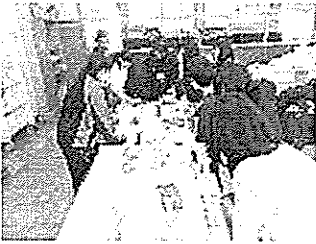
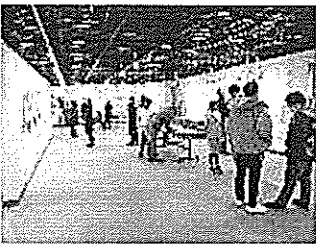
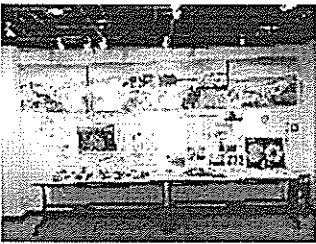

		創造活動①	 <p>押し花やドライフラワーを作成している様子</p>	<p>町にこんなにたくさんの方が咲いているのか」という自覚化された声があがっていた。</p> <p>図工の学習と関連づけ、表現したいものに合わせて表現方法ぼうとする姿が見られた。ここでも、失敗を繰り返しながら、その原因を追究し、探究的に取り組んでいた。</p>
1	桜が丘 2丁目	実地調査③	 <p>実地調査の様子</p>  <p>児童が撮影した写真①</p>  <p>児童が撮影した写真②</p>	<p>学区内の公園を2か所めぐると、思っていた以上に自然環境が広がっていたことに気づくことができた。しかし、それとは対照的にゴミがたくさん落ちていることにも気づいていた。すると、近くににあった箒を手にし、美化活動に励む姿が見られた。</p>

2	教室	創造活動②	 <p>「見上げれば自然」</p>  <p>「見上げればビル」</p>	<p>身の回りの景観の中で魅力的なところとそうではないところを見だし、写真を並べた。そうすることで視覚的にまちの景観を捉えることができ、より自然環境を求める心が湧き出てきていた。</p>
3	浦賀	実地調査④	 <p>西叶神社の様子</p>  <p>東叶神社の様子</p>  <p>渡し舟「愛宕丸」の様子</p>	<p>まちの立地として海と山が両方ともあることに着目し、県指定の天然記念物、源頼朝や勝海舟にまつわる神社である東西の葉神社、そしてそれを結ぶ渡し舟に乗船することで、まちの魅力つとして認識することができていた。子ども達の中には「夏休み中に市内19の神社で行われている夏詣をめぐりたい」という声も上がっていた。</p>

<p>授業時間外（休み時間）のため授業時間数としてのカウントはしない</p>	<p>教室</p>	<p>創造活動③</p>	 <p>教室の様子</p>	<p>自然環境に触れる中で「教室も花のある空間にしたい」という声があがった。自分たちなりにドライフラワーをアレンジメントしたりリースを作成したりと、休み時間を使って能動的な創造活動を行っていた。</p>
<p>3</p>	<p>ヴェルニー公園</p>	<p>実地調査⑥</p>	  <p>ローズフェスタの様子</p>	<p>自然を大切にしたい秋のイベントに参加し、それぞれの季節によるよさや、それを大切にしていこうとする人々の存在を実感していた。</p>
<p>2</p>	<p>図工室</p>	<p>創造活動④</p>	 <p>活動の様子</p>	<p>ローズフェスタで目の当たりにした薔薇の美しさを表現するために、日本藝術院会員/公益社団法人日展副理事長/一般社団法人東光会理事長の佐藤哲さんにご協力いただき、油絵に取り組んだ。本活動を通して、自分たちの気づきをアートとして表</p>

				現することへの充実感や達成感を得ることができ、より意欲の高まりが見られた。
2	図工室 特別活動室	創造活動⑤	 <p>活動の様子</p>	これまでは自分たちが発信し、他者の受信してもらうことで地域の街並みのよさを知ってもらう、という考えであったが、「一緒に創造活動をするにより伝わるのではないか」という気づきから、望洋まつりという行事でライブアート活動を行った。
4	ジェニック ストリート 横須賀市 文化会館 うみかぜ 公園	実地調査⑥	 <p>実地調査の様子</p>	地域の景観をよりよいものにしていくとする市の取組を目の当たりにし、景観とアートを結びつけることのよさに気づいていた。ここから自分たちにできるアートへと目を向け、発信していくとする意欲の高まりも見られた。
土日に 出展の ため授 業カウ ントな し	横須賀市 文化会館	表現①	 <p>マイコレクションの様子</p>	文化会館で実施されるマイコレクションに出展した。自分たちが表現したものが他者にどう伝わるのかという観点を学ぶこと



				ができ、さらに表現力を磨いていこうとする意欲が高まっていた。
	教室 特別活動室	創造活動⑥	 <p>活動の様子</p>	卒業生（現高校1年生）に学生ボランティアとして活動に参加してもらうことで、作品の質が高まっていくことを実感していた。
	横須賀市文化会館	表現②	 <p>作品展の様子①</p>  <p>作品展の様子②</p>  <p>作品展の様子③</p>	横須賀市文化会館にて一般社会に向けて「横須賀の魅力」を発信した。自分たちの表現が一般社会でどのように受け入れられるのかを実感するとともに、アンケートを通してさらなる課題を見いだすことができた。

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>子ども達ひとりひとりの“感性”を大切にし、自分事としての探究学習に取り組むことができるような授業デザインを意識した。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>教師主語の授業であればこちら側で見通しを立てることができ、1年間を通して円滑に取り組むことができるが、今回は児童主語の授業を徹底した。そのため、児童の発想や感性によって急に総合的な学習の時間が進展したり、逆に停滞してしまったりした。進展したときには教師側が後手に回るため、即座に対応しなければならず、停滞しているときには子ども達が進むまでじっと待たなければならなかった。私自身は他教科等も同様の授業デザインとしているため、「苦労」という感覚ではないが、本単元を進めていく上では上記が難しさであると感じている。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>「総合的な学習の時間は自分たちのためにある授業だ」と年度当初に言い切るほど探究学習を望んでいる子ども達であった。実地調査を通して本物の景観に触れ、そして魅了されることで「伝えたい」という思いが溢れ、それを他教科で培った力を使いこなしながら「表現したい」と、能動的に動き続ける1年間となった。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>担当教諭にとっても子ども達とともに学び合うことができた1年間となった。無自覚であったものに目を向けることによってその魅力や素晴らしさを自覚化することができるようになり、それが「横須賀の〇〇が好き」という肯定感につながったと感じている。また、学びに対してこれ以上ないほどに前のめりになった子ども達と関わることで、一律一斉の受動的な学びから個別最適で能動的な学びの大切さを再認識することができた。こうした授業デザインを総合的な学習の時間にとどまることなく、すべての教育活動において取り組むことができれば、子ども達がどのような姿となっていくのか期待が膨らむばかりである。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>1年間を通した単元デザインにより、複数回の探究サイクルが回っていった。最終的な目的は自分が「横須賀の〇〇が好き」と自信を持って語るができるようになることであったが、そうした活動を通して何ができるようになったのか、何を学ぶことができたのかを子ども達自身が自覚することが大切だと考えている。こうした学びは1年間で完結するものではなく、次年度も探究課題は異なるものの、探求的な学びを積み重ねていく必要がある。</p>